

放射能に関する情報

■ホットスポット除染事業の要件を緩和

市では、放射線量の低減を図るため、個人住宅の雨どい下などのホットスポット除染を実施しています。より実態に即したものとするため、次のとおり要件を緩和しましたので、該当する場合は、ぜひ、お申し込みください。

- 変更前 地表面から1mの高さで1 μ Sv/h以上の箇所
- 変更後 地表面から50cmの高さで0.5 μ Sv/h以上の箇所

- その他の要件
 - ▶現に居住している住宅地であること
 - ▶除去土壌等を同一敷地内に保管できること
- 申込専用電話 ☎@0606
- ☎放射線対策室 ☎@1111 内2189

■放射線空間線量測定へのご協力を

市では、放射線量マップの作成のため、無作為抽出(約1,500地点)により、個人の住宅地の放射線空間線量率の測定を昨年に引き続き実施します。

市民の皆さんの住宅地に市が派遣する測定員が訪問した際は、測定にご協力くださるようお願いいたします。

- 期 間 11月1日(休)~30日(金)
- 所要時間 1地点あたり3分程度
- 測定場所 庭の1か所で、地上高1cm、50cm、1mを測定
- 測定者 市職員または市が派遣する測定員
※名札を携帯しています

☎放射線対策室 ☎@1111 内2189

■放射線から健康を守る学習会

「放射線から健康を守る学習会」では、低線量放射線の影響と食の重要性をテーマに、(勲)ルイ・パストゥール医学研究センター宇野賀津子氏の講演を行います。

- 日 時 11月28日(休)午後6時~7時30分
- 会 場 中央保健センター(北中川原)
- 申込期限 11月26日(月)まで
- 申し込み・問い合わせ先
本庁舎健康増進課 ☎@2112 / 各庁舎市民福祉課
表郷 ☎@2114 大信 ☎@2114 東 ☎@2116



みんなで食べるとさらにおいしい。月1回開催のVめしは、みんなの楽しみの一つです。



食事を通してのコミュニケーションも増え、ここで友だちとなることもあります。

Interview

高橋夕美さん(中田仮設住宅/葉ノ木平)

食事の提供により交流の輪が広がりました

趣向を凝らした食事を楽しみにしています。本当にボランティアの方に感謝しています。また、食事をみんなで食べることで、交流が広がるのもいいですね。一緒に趣味をしたり、お茶を飲んだりするお友だちができました。

を始めた心境を話しました。
10月28日、3人は「ライフポートわしお白河店」に向かいました。お目当ては、翌日の献立となるちらし寿司とコンソメスープ50人の食料。
瀬谷さんは、「おいしい」という声を聞くと自分自身の張り合いになります。食事を作る前からみんなの満足した顔を想像しているんですよ」と瞳を輝かせていました。
自らも震災により、日常の生活を奪われた被災者自身が他の被災者のために何かをする姿。自分の悲しみや不安を胸にしまい、支え合いの輪を広げ、立ち上がる彼女たちの姿に、新たな希望の灯が見えます。
「みんなに勇気を与えられる、おいしい食事をこれからも作っていきましょう。私の勇気が入った味付けで」と及川さんは2人を笑わせました。



Volunteer めしの存在

◎連続掲載 未来へのたすき

人に勇気を与える「ご飯」があるという

仮設住宅等支援は、行政にとどまらず民間からの様々な内容の支援が行われています。

今月号では、被災者自らが立ち上がり、他の被災者のためにボランティアを行う姿をレポートしました。

自ら立ち上がる姿 新しい希望の「Vめし」

「Vめし」はボランティアが提供するご飯のことです。ボランティア(Volunteer)の頭文字であるVの付いたこの言葉は、「NPO法人とちぎボランティアネットワーク(代表・栗山宏さん)」が中田仮設住宅に食事の支援をする際に、ボランティアの間で略語として使われていたものです。

同ネットワークは、仮設住宅が出来た直後から月1回の食事の支援を行っています。このVめしを支えているのが自らも被災し、同仮設住宅に住む長島節子さん(関辺)、瀬谷澄子さん(関川)、及川清子さん(南相馬市)。3人は現在、同ネットワークとの食事内容の打ち合わせ、買い出しや料理を一手に引き受けています。

長島さんは、「いつの間にか3人でお手伝いするようになりました。私自身も仮設住宅に住んでいるからこそ、被災者の気持ちを汲みとった活動ができるのでは」とボランティア



長島さん、瀬谷さん、及川さんの周りには多くの人が集まり、自然に笑顔が広がっています